

当院でのお薬の作り方

様

退院日

年

月

日

薬局・病院・診療所などにかかれるとき本紙をご持参いただくと
当院でのお薬の作り方を正確にお伝えすることができます。

入院中に簡易懸濁法により経管投与していた患者さんです。

お薬を経管栄養チューブから投与する場合に、お薬を粉末状にせず錠剤やカプセル剤をそのまま約 55℃の温湯に入れて 10 分間崩壊懸濁させ、お薬を投与する方法

「何もしなくても温湯で懸濁可能な薬品」、「錠剤を傷つけたら温湯で懸濁可能な薬品」、「水で懸濁させる必要のある薬品」、「簡易懸濁不可能な薬品」、「分散性の悪い薬品」等があります。当院では以下のような方法で調剤しておりました。処方せん（退院時処方情報）の薬品名の右側に記載している記号（＋／－）をご参考に調剤して頂ければ患者さんは混乱がないかと思います。ご協力のほど、よろしくお願いします。

○記号の説明と調剤方法

処方せん（退院時処方情報）の記載内容

薬品名の右側に“＋”の印字のある医薬品：そのまま 55℃のお湯に懸濁可能です。

粉砕せずに、錠剤（又はカプセル）を一包化してください。

薬品名の右側に“／”の印字のある医薬品：錠剤を半分に割ることで簡易懸濁可能です。

薬品名の右側に“//”や“///”の印字のある医薬品：破砕することで簡易懸濁可能です。

1 回分づつ一包化し、分包紙の上から錠剤を乳棒などで砕いてください。

///の薬品はより細かく砕いてください。

薬品名の右側に“－”の印字のある医薬品：簡易懸濁不可能です。

粉砕にて対応してください。

別包扱いの医薬品（別紙参照）：

簡易懸濁法に適さないため別包にしています。

常温の水で溶解・懸濁していただき、お湯で

懸濁した薬品とは別に投与する必要があります。

何かご不明な点がございましたら下記の方までご連絡下さい。

京都市立病院 薬剤部 担当薬剤師

連絡先：075-311-5311(内線 2101)